

広島市の犯罪情勢

1 基本計画に掲げた施策目標

第4次広島市安全なまちづくりの推進に関する基本計画(令和3年3月策定)において、次のような施策目標を掲げています。

○刑法犯認知件数を年間 5,700 件以下とします。

○市民の安心感の向上のため、不安に感じる犯罪の認知件数を年間 2,600 件以下とします。

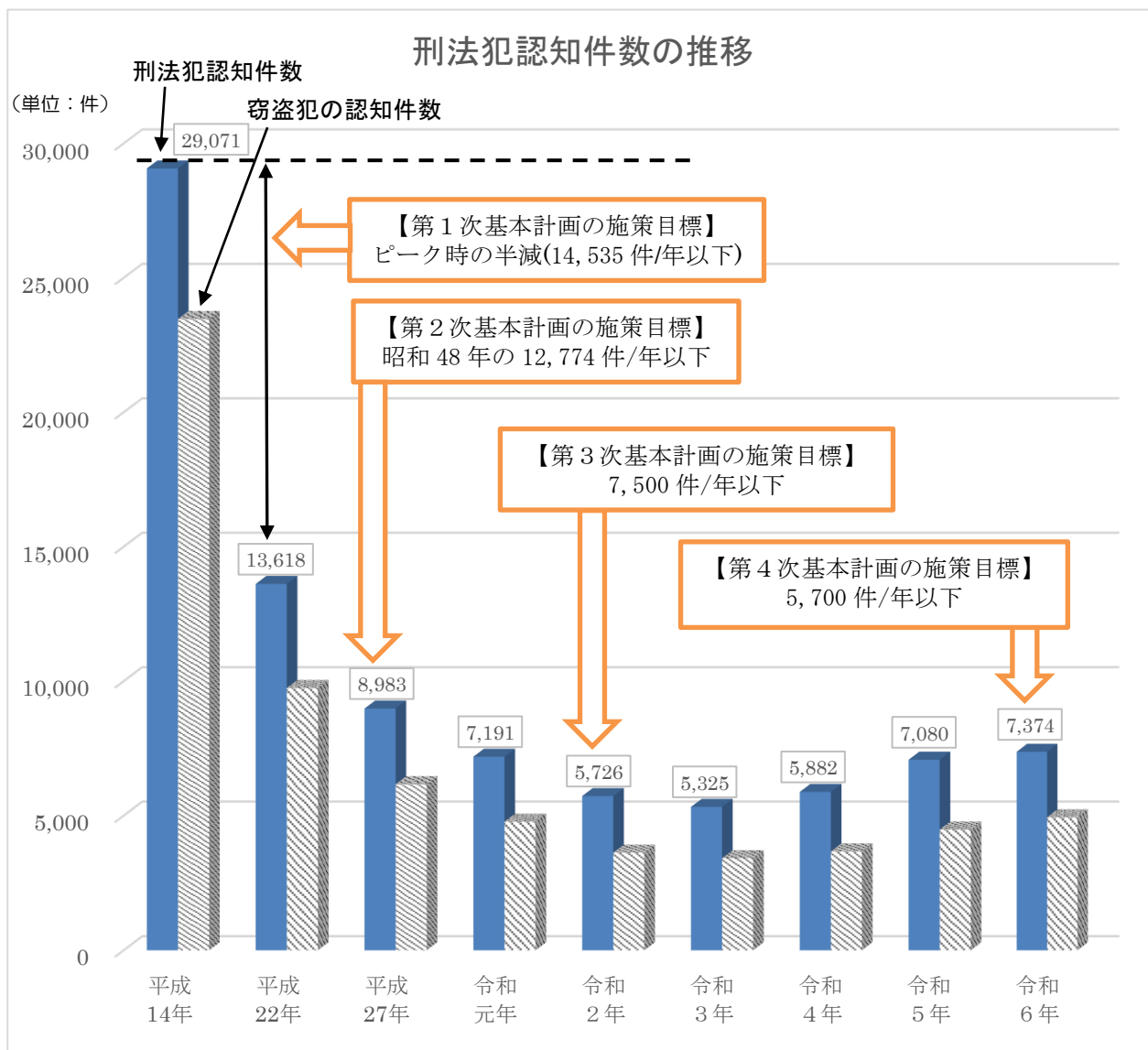
2 刑法犯認知件数の推移

(1) 広島市の刑法犯認知件数

令和6年の刑法犯認知件数は7,374件となっており、前年の令和5年と比較して294件の増加(4.2%増)となりましたが、ピーク時の平成14年の29,071件と比較して約4分の1まで減少しています。

令和4年から3年続けて増加となり、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年の水準を超えたことから、引き続き犯罪情勢の動向を注視する必要があります。

刑法犯認知件数を罪種別にみると「窃盗犯」(侵入盗や乗り物盗)が最も多くなっており、例年、全刑法犯の6割以上の認知件数となっています。



資料: 広島県警察提供

(2) 本年の刑法犯認知件数

令和7年1月から6月までの刑法犯認知件数は3,416件となっており、令和6年の同期間と比較すると206件の減少（5.2%減）となっています。今後、夏休みなど外出の機会も多くなり、人流が活発化して犯罪発生が多くなることが懸念されるため、引き続き犯罪情勢の動向を注視する必要があります。

（単位：件）

区 分	令和7年 1月～6月	令和6年 1月～6月	増減	
			件数	率
刑法犯認知件数	3,416	3,622	▲206	▲5.7%

資料：広島県警察提供

(3) 各区の刑法犯認知件数の状況

本市の令和6年の刑法犯認知件数は、コロナ禍前の令和元年に比べて183件の増加（2.5%増）となっています。令和元年と比較して、西区が100件以上の減少、東区と佐伯区が100件以上の増加となっています。罪種別に見ますと、全市で窃盗犯が150件以上、知能犯（詐欺など）が250件以上も増加しており、これらが刑法犯認知件数の増加要因と認められます。

各区の刑法犯認知件数の状況

（単位：件）

区分	令和6年	令和元年	増減数	増減率	人口千人当たりの刑法犯認知件数	参考
						ピーク時 （平成14年）
中区	2,084	2,068	16	0.8 %	14.49	7,344
東区	635	508	127	25.0 %	5.46	2,315
南区	1,232	1,194	38	3.2 %	8.58	4,394
西区	1,050	1,228	▲ 178	▲ 14.5 %	5.65	4,519
安佐南区	1,062	990	72	7.3 %	4.33	4,622
安佐北区	435	473	▲ 38	▲ 8.0 %	3.27	2,151
安芸区	224	242	▲ 18	▲ 7.4 %	3.06	1,158
佐伯区	652	488	164	33.6 %	4.70	2,568
全市	7,374	7,191	183	2.5 %	6.25	29,071

※人口千人当たりの刑法犯認知件数における人口は、令和6年12月1日現在推計値を使用

資料：広島県警察提供

3 不安に感じる犯罪の認知件数の推移

第4次基本計画では、年間2,600件以下を施策目標としています。令和6年の「不安に感じる犯罪」の認知件数は3,326件で、コロナ禍前の令和元年と比較して94件の減少（2.7%減）となっています。

不安に感じる犯罪の認知件数の状況

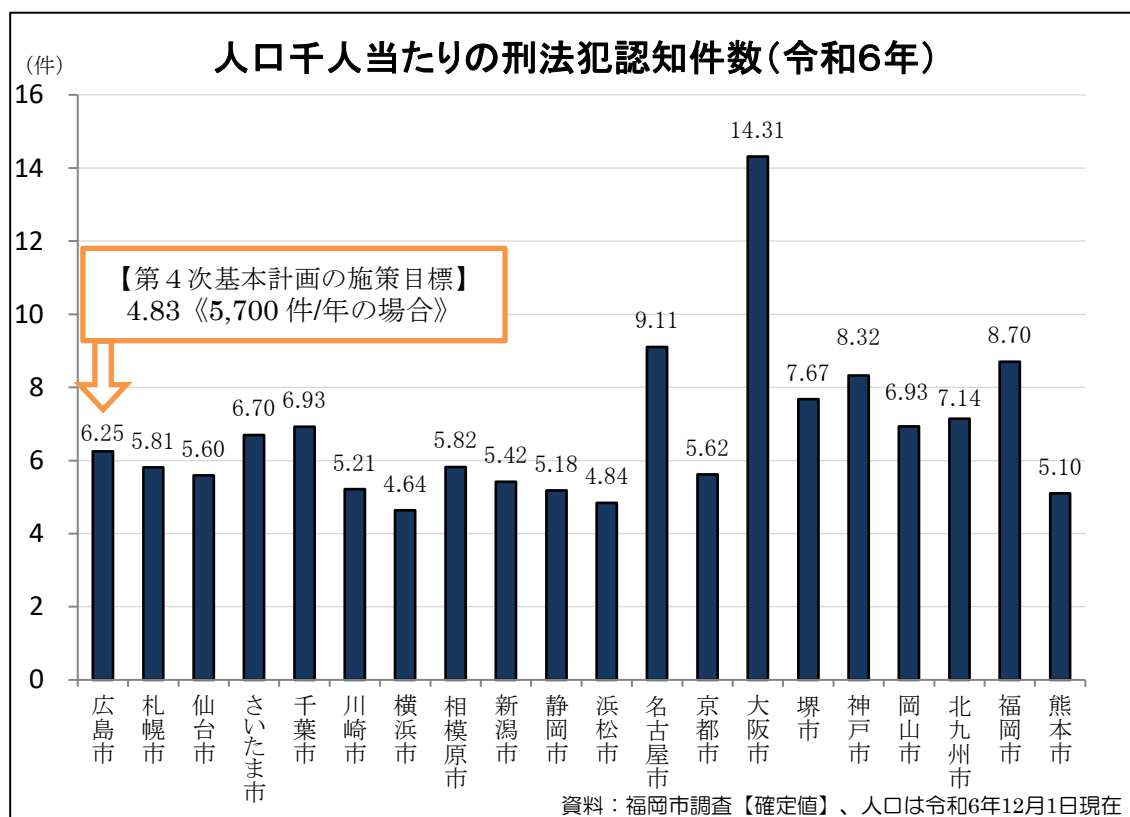
区分	令和6年	令和元年	増減数	増減率（%）	(参考) 平成14年
					(単位：件)
自転車盗	2,051	1,803	248	13.8 %	6,225
車上ねらい	255	219	36	16.4 %	1,985
器物損壊等	541	808	▲267	▲ 33.0 %	2,743
侵入強盗	3	1	2	200.0 %	17
侵入窃盗	261	356	▲95	▲ 26.7 %	3,109
住居侵入	110	132	▲22	▲ 16.7 %	298
性犯罪（不同意性交等、不同意わいせつ）	105	101	4	4.0 %	194
総 数	3,326	3,420	▲94	▲ 2.7 %	14,571

資料：広島県警察提供

4 人口千人当たりの刑法犯認知件数の政令指定都市比較(令和6年)

本市の人口千人当たりの刑法犯認知件数は6.25件となっており、コロナ禍前となる令和元年が6.00件であったことから増加傾向となっています。

本市は、政令指定都市の中で過去10年間のうち、平成30年の5位が最高位でしたが、令和6年は11位となっています。



5 こども・女性に対する声かけ事案等の把握状況

令和6年のこども・女性に対する声かけ等の把握件数は1,204件で、令和5年の把握件数と比較すると74件減少しているものの、依然高い水準で推移しています。

コロナ禍前の令和元年と比較して減少しており、前年比較すると増加する年もあったものの減少傾向にあります。

(単位：件)

区 分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
こども	621	519	555	506	564	501
女性	844	782	802	714	714	703
合計	1,465	1,301	1,357	1,220	1,278	1,204

資料：広島県警察提供

令和7年1月から6月までのこども・女性に対する声かけ事案等の把握件数は623件で、令和6年の同期間と比較して総数で増加しています。

特に、こどもへの声かけ事案が65件増加しており、市民に対しては早期に情報提供を行い、注意喚起をしていきたいと考えています。

(単位：件)

区分	令和7年 1月～6月	令和6年 1月～6月	増減	
			件数	率
こども	312	247	65	26.3%
女性	311	335	▲ 24	▲ 7.2%
合計	623	582	41	7.0%

資料：広島県警察提供

6 特殊詐欺被害等の状況

令和6年の特殊詐欺被害の認知件数は126件、被害額は約5億6,400万円で、令和5年と比較すると、認知件数は減少となっているものの、被害額は約4割の増加となっています。

区 分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
認知件数（件）	95	52	96	110	177	126
被害額（万円）	17,221	7,363	14,913	32,846	41,120	56,353

資料：広島県警察提供

令和7年1月から6月までの特殊詐欺被害の認知件数は103件、被害額は約5億7,300万円で、全年代で増加しており、特に20歳代と80歳代の被害が大幅に増えています。主に高齢者が、被害に遭っていた特殊詐欺ですが、最近は警察官を騙り、逮捕をちらつかせながら金銭を要求するなど手口が巧妙化しており、年代関係なく特殊詐欺被害に遭っているものと考えられます。

区 分	令和7年 1月～6月	令和6年 1月～6月	増減	
			件数・額	率
認知件数（件）	103	48	55	114.6%
被害額（万円）	57,272	12,259	45,013	367.2%

※被害額は千の単位を四捨五入した概算

資料：広島県警察提供

一昨年末から急激に増加している、SNS型詐欺の被害については、令和6年中、特殊詐欺の被害を大幅に超えています。SNS型投資詐欺の認知件数は121件、被害額は約11億5,000万円となり、SNS型ロマンス詐欺の認知件数は32件、被害額は約2億5,000万円となっています。

両詐欺の被害額合計は、特殊詐欺の2倍以上となる約14億円となっており、市民が被害に遭わないため、各種媒体を通じて広報することが急務となっています。

区 分	SNS型投資詐欺 令和6年	SNS型ロマンス詐欺 令和6年	合計
認知件数（件）	121	32	153
被害額（万円）	114,459	24,986	139,445

※被害額は千の単位を四捨五入した概算

資料：広島県警察提供

本年に入ってからSNS型詐欺の被害は増え続けています。被害者を年代別にみまると投資詐欺は主に40歳代以上、ロマンス詐欺は20歳代以上の全世代に被害が及んでいます。

被害の平均金額も約950万円と高額になっており、市民には早期に新たな手口情報を発信して注意喚起する必要があります。

区 分	SNS型投資詐欺 令和7年1月～6月	SNS型ロマンス詐欺 令和7年1月～6月	合計
認知件数（件）	30	36	66
被害額（万円）	16,237	46,024	62,261

※被害額は千の単位を四捨五入した概算

資料：広島県警察提供